

横断的な課題への対応 (骨子素案)

- 平成27年度未諮問基幹統計の確認審議では、個々の基幹統計の確認結果に加え、審議を通じて把握した政府統計に共通する横断的な統計の課題について、経済財政諮問会議からの検討要請事項も含め、その改善・対応の方向性を以下に取りまとめ。
- 指摘した課題の解決を通じた統計間の整合性や精度の確保・向上は、「証拠に基づく政策立案」の的確な実施、学術研究や産業創造等にも貢献するため、統計委員会としてはその実現に向け、各府省における当該取組の一層の強化に期待。

I 統計技術的な視点に基づく統計作成改善の方向性

個別の統計の審議を通じて得られた統計技術的視点から各種調査に共通する改善に向けた取組の方向性は以下1～6のとおり。

1. 母集団情報の検証、整備

- ・ 母集団情報の適切な整備に向けた改善の取組を行うことが必要。
- ・ 事業所・企業を対象とする統計調査では、事業所母集団データベースが提供する最新データを、共通基盤的な母集団情報として適時・適切に活用することを推進。

2. 標本替え時に発生する断層の縮小

- ・ 経常的に一定期間継続して同一対象に調査を実施している標本統計調査においては、一斉に標本抽出替えを行う際に発生する結果の断層の縮小を図るため、標本抽出替えを分割して行うローテーションサンプリング等の方策を導入することを推進。
- ・ 有用な情報が存在する場合、断層調整の方法を検討し、調整済結果を参考提供することで、利用者の利便性向上を推進。

3. 回収率向上方策の推進

- ・ 他調査において効果のあった事例を共有・活用する等して、回収率向上への取組を進めることが必要。(なお、これらの対応を行うためのリソースを確保する必要)

4. 欠測値、外れ値への対応

- ・ 重要な調査事項で回答が得られないもの(欠測値)を、公開データ、行政記録情報、別の調査項目からの統計的手法による推定等から補完したデータで統計を作成・提供することにより、回答の歪みを縮減し統計の精度を確保する取組を推進。

また、回答の異常値(外れ値)に対する適切な処理を行うようにする取組を推進。

5. 母集団推計における補正

- ・ 回収サンプルの偏りを縮減した母集団推計の一層の精緻化。さらに、必要に応じて、別の統計情報を用いて回収サンプルの偏りに対処を行った母集団推計結果などの参考系列の作成・提供を通じ、利用者の利便性向上を推進。

6. 精度検証の定期的実施と結果の公開、調査方法等の改善

- ・ 標本と母集団の適合状況、本系列と参考系列などの統計精度について定期的に検証を実施し、その検証結果を公開。
- ・ 精度に問題があると判断される場合、要因分析を行うとともに、調査方法の変更（督促の徹底などによる調査票回収率の向上、オンライン調査推進等）や情報取得そのものの在り方（行政記録情報での代替、ビッグデータの活用等）を含めた改善を検討・実施。

II 景気統計として見るときの留意点

- ・ 標本調査では、標準誤差や標本入れ替えに伴う集計値の段差が大きくなる場合がある。また、報告者の協力意識の低下や共働き世帯・単身世帯の増加など統計調査をめぐる環境が厳しさを増す中で、回収サンプルの偏りが発生する場合がある。こうした問題は構造統計としてその対処が喫緊の課題であることは I. で説明した通りである。
- ・ これに加えて、これら統計は景気統計としても広範囲に利用されており、景気統計としてこれら統計への望ましいあり方についての要請がある。特に低成長の下では、標準誤差、標本入れ替えに伴う段差、回収サンプルの偏り等の影響で、上昇か下落かの判断が変わるという事態が生じる可能性が否定できない。
- ・ そのため、統計作成者は、当該統計の目的や統計の特性（標本誤差、調査実施状況、サンプル分布等の情報など）の詳細な情報を提供し、景気統計として統計を用いる利用者は、これらを十分認識した上で取捨選択、利用することが必要。

III 統計作成過程の見える化の推進（情報提供の充実・強化）

- ・ 抽出方法、調査方法、回収率等の調査の実施状況、集計方法（外れ値の処理方法、欠測値の取扱い等を含む）の情報開示の充実が必要
- ・ また、精度検証の結果や関連する統計との整合性も考慮した集計結果の比較・分析に取り組むとともに、これらの分析の結果等の情報開示の充実も必要。

IV 工程表

- ・ 上記の取組を具体的に改善していくためには、今後、個々の統計で工程表を作成し、着実かつ計画的に取組を進めることが必要。なお、今回の横断事項を毎月勤労統計調査、法人企業統計調査、家計調査の個別審議によって指摘された取組に当てはめると以下の表のとおり。
- ・ また、具体的な工程表の編成に当たっては、統計委員会に検討結果等をフィードバックする仕組みを組み込んだものとする必要がある。

統計作成改善に係る事項	法人企業統計調査、毎月勤労統計調査、家計調査での取組
統計技術的な視点に基づく統計作成改善の方向性	
母集団情報の検証、整備	<ul style="list-style-type: none"> 法人企業統計調査において、平成29年3月までに母集団情報の突合等の検証 毎月勤労統計調査において、最新の母集団情報を活用することなどを、来年度、統計委員会に諮問
標本替え時に発生する断層の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 法人企業統計調査において、断層調整結果の参考提供を来年度から検討 毎月勤労統計において、ローテーションサンプリングの導入などを、来年度、統計委員会に諮問
回収率向上方策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 法人企業統計調査、毎月勤労統計調査、家計調査において、引き続き、実施
欠測値、外れ値への対応	<ul style="list-style-type: none"> 法人企業統計調査において、欠測値の処理について来年度から検討
母集団推計における補正	<ul style="list-style-type: none"> 家計調査において、来年度から参考統計を公表
精度検証の定期的な実施と結果の公開、調査方法等の改善	<ul style="list-style-type: none"> 家計調査において、来年度から検討
景気統計として見るときの留意点	<ul style="list-style-type: none"> 家計調査において、来年度から検討
統計作成過程の見える化の推進 (情報提供の充実・強化)	<ul style="list-style-type: none"> 法人企業統計調査、毎月勤労統計調査、家計調査において、引き続き、実施

※ 記載内容はイメージ。今後取りまとめる報告書には個別統計調査における結論を踏まえて内容を記載。

V 統計改善の徹底に向けた体制の整備等

- ・ 上記の取組は、各統計に共通する横断的な課題であり、今後、すべての政府統計において検討し、改善を図る必要がある。そこで、今後は継続的に、次のようなPDCAサイクルを機能させていくことが重要である。まず、統計及び統計制度を所管する総務省が、統計委員会の意見を基にしつつ、統計のステークホルダーのニーズを広くくみ取り、統計精度に関する定期的な検査を実施する。そして、統計委員会においては、全府省の協力の下で審議を行い、課題とその課題解決に向けた方針を整理する。それに基づき、統計作成府省は改善に向けた取組を着実かつ計画的に行っていく。その後、その取組についての進捗状況を、統計委員会が点検する。
- ・ こうしたPDCAサイクルの取組を実効性のあるものとするためには、まず、各府省の統計リソースの強化が不可欠である。現在、各府省の統計担当部門は、統計の作成・分析・提供に必要な予算及び人員が不十分であり、経常的な業務に加えて、精度向上に取り組む余裕がないのが実情である。そうした中で、国や地方公共団体の政策運営の基礎的情報の提供及び学術研究や産業創造への貢献という役割を果たすためには、統計担当部門に高度な統計知識を有し統計の品質向上を専門的に行う組織と財源を確保し、統計リソースを喫緊に強化する必要がある。
- ・ また、専門的人材を有し、かつ府省横断的な統計の作成・提供、研修等を実施している総務省（統計局・統計研修所）・統計センターが積極的に各府省の統計担当部門を支援する。このように、府省を越え、政府全体として統計リソースを有効に活用すべきである。同時にリソースの有効活用のために、必要ならば従来の枠を超えた統計作成・リソースの配分も視野に入れる

べきである。

- ・ さらに、調査票回収を担う調査現場では、高齢化が進み、熟練度の高い調査員の確保がますます困難となっている。こうした地方公共団体における調査の実施環境の整備のため、十分な人材と予算を確保することも重要である。
- ・ 一方、統計調査の環境は年々悪化し回収率へ影響を及ぼす中、経済実体を正しく把握するための統計精度の向上を実現するのに、既存統計における統計技術的な面での改善では限界もある。そこで、公的統計でも、行政記録情報や官民が保有するビッグデータ等を含めた「統計情報」の活用を目指すべきである。そのためには、行政記録やビッグデータに関する情報を収集し、民間と連携しながら、新しい「統計情報」と既存の調査統計とを連結するための条件を検討していくことなどが考えられる。
- ・ 統計委員会においても、公的統計に関する横断的かつ統計技術的な課題の解決、および新しい「統計情報」の活用に向けて検討を行うための体制の充実・強化を図る必要がある。